

地

人

芸

術

藝術学関連学会連合 第7回公開シンポジウム

地・人・芸術

〈芸術と地域〉を問う

2012年6月16日(土) 13:00-16:30

仙台市博物館ホール 入場無料(申し込み不要)

藝術学関連学会連合 第7回公開シンポジウム

「地・人・芸術 - <芸術と地域>を問う -」

現代芸術の状況はますますグローバル化している。作家の活動も、プレゼンテーションの仕方も、享受者あるいは参加者の期待も、また状況全体に対するさまざまな言説もグローバル化している。だが昨年3月11日東日本太平洋沿岸を襲った大津波、さらに福島原発事故による放射線汚染に直面して、私たちの社会的、文化的営為がいかに大地 locus に支えられてきたかを思い知らされた。しかも銘記しておかねばならない、世界を揺さぶる作品やディスコースは、創造主体の生きる「ここ今」という土 locus の匂いをなおそこに留めていることを。

そもそもグローバル化自体が広大な宇宙の中では地球という一つのローカルなミュートスであることにかわりなく、逆に地 locus に生きることがグローバル化を超えて広大無辺の世界に届くというパラドックスは、少なくとも芸術の世界では真実である。本シンポジウムは東北の歴史文化の拠点仙台市博物館で、「芸術と地域」をテーマとして開催される。

半世紀以上にわたって日本がひたすら走り続けてきた国家建設が今岐路に立たされている。長く文明開化にエネルギーを送り続けてきた「地域」が衰弱し、機能が低下している。国政は「地域振興」という名の下に数々の政策を立法化し、地域の活性化を講じてきたが、真の解決を見出してはいない。それらがいわば外からの提言、対処策、財政措置にとどまっていたからではないか。在所不明の地域活性化の提言を行ってきた識者の責任も重い。

地域には地の息遣いが聞こえ、声が響いてくる。そこに生きた人々の生への意志と功業が地域固有の文化と歴史を形成してきた。爾来、開催地東北地方には豊かな民話伝説が伝えられ、さまざまなジャンルにおいて、その地域だからこそ素晴らしい作品と作家が生まれてきた。だがそこだけでない。さまざまな地方でかずつの努力が積み重ねられ、民俗芸術の域をこえて、かずつの芸術が伝統として実を結んできた。挫折もあり、成功もあり、ヴァイタルなエネルギーを伴うさまざまな試行、運動が今も続いている。それら各地の総和と余剰を、芸術学の視点から考えてみよう。地 locus の力を際立たせ、地域の活性化への内発的な道筋を共有できるのではないか。

現代史の節目に、フランス・ベーコンがスコラ哲学の模倣原理から脱するために、しかも自然と向かい合うことをやめないために使用した技術(芸術)の定義「自然に付加された人間 l'homme ajouté à la nature」が浮上する。ゴッホは画家になることを決意する鉱山の都市ポリナーージュで、「芸術、それは自然に付加された人間である。ぼくは芸術についてのこれ以上の定義を知らない」と弟テオに書く(1879年)。大戦の跡生々しい1945年のパリでメルロ＝ポンティは、生涯郷里エクス・アン・シュール・メーヌを描きつづけたセザンヌの方法にことよせて、この芸術の定義を「古典的」と記して自らの哲学の位置を見定めた。その近みに宮澤賢治の夢を置いてみよう。1926年かれは東北の一角花巻にいて「羅須地人協会」をおこし、肥料の

科学に専心しながら、「地人芸術」を構想し、地 locus から発して音楽、絵画、彫刻、演劇、舞踊すべてのジャンルへと放射する総合芸術を志向した。私たちはそれをヒントに、本シンポジウムのタイトルを選んだ。

今日、危機の時代に、私たち芸術学関連学会連合はそのカヴァーする多様なジャンルからそれぞれの切り口で<芸術と地域>を問い、時代の隘路を切り開く可能性を考えたい。

主催：芸術学関連学会連合

意匠学会／国際浮世絵学会／東北芸術文化学会／東洋音楽学会／日本映像学会／日本演劇学会／日本音楽学会／日本デザイン学会／比較舞踊学会／美学会／美術科教育学会／美術史学会／舞踊学会／広島芸術学会／服飾美学会
日本学術会議哲学委員会 芸術と文化環境分科会

共催：仙台市博物館

日時：2012年6月16日(土) 13:00-16:30

会場：仙台市博物館ホール

交通：仙台駅西口バスプール9番乗場 710～720系統のバス
(718系統を除く、青葉台・成田山・宮教大・動物公園循環・交通公園川内(営)行)で約10分、博物館・国際センター前下車、徒歩3分

総司会：平山敬二(東京工芸大学、美学会)

開会挨拶：西村清和(芸術学関連学会連合会長、日本学術会議会員)

外山紀久子(埼玉大学、日本学術会議連携会員)

趣旨説明：金田晋(東亜大学、広島芸術学会)

パネリスト：渡部泰山(大原豊)(山形大学、東北芸術文化学会)

報告「地域と演劇—文化・芸術活動の起点にあるもの」

奥中康人(静岡文化芸術大学、日本音楽学会)

報告「地域社会にとっての音楽文化

—石巻市の大沢楽隊を巡って—」

吉村典子(宮城学院女子大学、意匠学会)

報告「芸術と地域—英国都市再生の事例から」

芳賀満(東北大学、美術史学会、日本学術会議連携会員)

報告「地域復興の為の芸術のカー

①高台移転に伴う埋蔵文化財発掘調査の社会的意義

②文化庁の「文化財レスキュー事業」の意義と問題点

③災害対策基本法への文化財の観点の付加

④ゲニウス・ロキと災害モニュメント」

ディスカッション：コーディネーター：金田晋／平山敬二

閉会挨拶：内山淳一(仙台市博物館学芸室長)

シンポジウムオーガナイザー：金田晋／平山敬二

問い合わせ先：03-5371-2964 東京工芸大学大学院芸術学研究科芸術学領域研究室

入場無料(申し込み不要)